

2020年1月実績概要（メモ）

（2020. 2. 20）

クラッカーの減産とともに各誘導品の生産においても前年比二桁台の減少品目が多くなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 518,700トン

前月比 ▲8.1% (▲45,800トン)

前年同月比 ▲10.6% (▲61,500トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比> | <前年同月比> |
|------------|--------|---------|
| 日数増減 | — | — |
| 定修要因等 | ▲ 3.6 | ▲ 3.4% |
| 能力増減 | — | — |
| 稼働率変動 | ▲ 4.5% | ▲ 7.2% |
| 生産増減率 | ▲ 8.1% | ▲ 10.6% |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.5% → 当月91.1% ← 前年同月98.1%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主として稼働率要因からHD、PS、SM、AN、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目でマイナス。LD、EO、BRなどの4品目はプラスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、HD、PP、PS、SM、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。塩ビモノマー、アセトアルデヒドの2品目のみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、前月の生産が低めであったLDは当月は主に稼働率要因からプラス。HD、PP、PSは稼働率要因からいずれもマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、LDではフィルム分野において出荷の増加が見られたものの、加工紙分野等が減少、HD、PPでは射出成形分野を中心に出荷が減少したほか、PSでは包装分野の大幅な出荷低迷もありそれぞれマイナスとなった。

前年比では、前年が原料情勢を巡る先安観からの買い控えも見られ、LD、HDでは出荷が低迷した。これに対し、当年は、LDはフィルム分野の出荷増加もありプラス。HDはほぼ前年並みとなった。他方、PPは射出成形分野の出荷減少、PSは電機・工業分野、包装分野の出荷減が大きく響きマイナスとなった。

ハ) 輸出

ポリオレフィンでは前年の後半から輸出の増加基調が続いてきたが、当月は生産の減少もあり、前月比ではLD、HD、PP、PSとともにマイナスとなった。

前年比では、前年の輸出が低めであったこともあり、比較上、LD、PSは前年並みか微増、HD、PPはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂で増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは上昇、HDは低下、PP、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HD、PP、PSともに高めの水準となっている。

| | 前月対比増減量 (単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) | |
|----|--------------------|------------------|-----|
| | | 12月末 | 1月末 |
| LD | +17,500 | 3.4 | 3.5 |
| HD | +2,700 | 3.7 | 3.4 |
| PP | +32,700 | 3.0 | 3.0 |
| PS | +4,500 | 1.7 | 1.7 |

以上